

# さまざまなツールを使った 文字情報サポートの方法 202

2021.9.21 発行

手話通訳などの情報保障を利用していたり、補聴援助システムを中心に活 用したりして授業に参加している場合でも、キーワードや話しの要点を文字 で伝えるサポートがあるだけで、聴覚障害学生にとっては大きな助けになる 場合があります。

離れた場所から授業支援を行っている時に、支援者と聴覚障害学生とで個別に連絡がしたいと思う場面があるのではないでしょうか。例えば、「ネットワークが不安定で接続ができない」「授業の開始が遅れている」など状況をすぐに伝えたい時があると思います。

また、グループディスカッションの時にはメンバーが直接意見を入力した 方が伝わりやすかったり、先生が資料に書いていない大事なことを話そうと する時、その場で文字でのフォローもできるとよいことがあるのではないで しょうか。

そんな時にテレビ会議システムの機能や日頃使い慣れているチャットツー ル、コミュニケーションアプリを使用して、簡単に情報伝達ができます。

なお、パソコンノートテイクのように連係入力はできませんので、あくま で補助的な機能として、ご活用ください。

※今回紹介するツールのほか、「Googleドキュメント」 を活用する方法もあります。 Googleドキュメントでは相手の 入力過程も見ることができます。 以下のマニュアルもご参照ください。

「【マニュアル】 Googleドキュメントの共同編集 機能を使った文字情報の提示」







# 1. テレビ会議システムでの活用

### 特徴と使い方

- ・オンライン授業がZoomで行われている場合、Zoom以外のシステムを 使用することなく、個人間または参加者全員で直接連絡ができます。 教員から聴覚障害学生や学生同士でメモや補足、要点を伝える時に 便利です。
- ・教員が授業の中で、学生に質問や投げかけをする際に、チャットを用 いることで聴覚障害学生も他の学生と同じタイミングで情報を受け取 り回答をすることができます。加えて、送受信した内容の保存ができ る他、参加者全員にとっても質問の見返し等ができるなどメリットが あります。

<操作方法>

制

作



筑波技術大学 **PEPNet-Janan** 

# 2. チャットツールの活用

#### チャットツールとは

チャットツールには、「Microsoft Teams」や「LINE WORKS」 「Slack」など様々なアプリがあり、無料で使用できるものもあります。 基本的にはグループ内でリアルタイムに文字のやりとりをすることが 可能で、グループ全員又は一部のメンバーを指名してやりとりやテー マごとにチャンネルを分けてやりとりすることもできます。

また、ツールによって既読機能や相手が入力している時に「入力 中」と表示される機能があります。

<参考>※使用する端末によって異なる場合があります。

- ・Microsoft Teams: 既読機能、「入力中」の表示
- ・LINE WORKS: 既読機能

・Slack:「入力中」の表示

特に「入力中」と表示される機能については、相手が打っているこ とが分かることで聴覚障害学生の安心に繋がりますし、複数の学生が 同時に打ってしまうなど、重複することもありませんので、リアルタ イムのやりとりにはメリットのある機能です。

授業の連絡やゼミなどのグループで 使用しているものがあれば、そのツール を文字サポートに活用することができ ます。



イン授業での

情報保障に関する

PEPNet-Japan





Webブラウザやアプリから使用できるものが多いので、パソコンだけ でなく、タブレットやスマートフォン等からもアクセスができます。

特定のメンバーごとにチャンネルを設定することで、チャンネル内で 簡単にチャットが行えます。例えば、授業ごとにチャンネルを作成し、 授業の資料送付や支援者との連絡調整を行うことで、情報が蓄積でき、 前回の振り返りや次回の支援者への連絡など情報を共有することができ ます。授業時にも支援者と聴覚障害学生との補助的に活用したり、トラ ブルが起こった時に支援室との連絡なども可能となります。

<操作方法>

※ここでは「Slack」を使う場合の例を紹介します。

①SlackをWebブラウザで検索し、新規ワークスペースを作成します。 ②任意のチャンネルを作成し、チャンネルにチームメンバー(参加

者)のメールアドレスを追加します。

③追加されたチームメンバーにメールが届くとチャンネルに登録され

ます。

- ④チャンネルに登録後、連絡が可能と なります。
- ⑤ダイレクトメッセージでは、

チームメンバー同士でチャットを 非公開で行うことも可能です。



オンライン授業とSlackを配置した例



PEPNet-Japan

## 3. コミュニケーションアプリの活用

コミュニケーションアプリを使い、スマートフォン等で文字情報を伝 えることができます。ゼミのメンバーのグループがあるなど、もともと 活用できるツールがある場合は利用するとよいでしょう。利用学生はオ ンライン授業を受信するパソコンでチャット画面も並べて開くか、別途 スマートフォンなどでチャットを受信します。

#### 特徴と使い方

LINEを使用する場合、もともと使える仲間同士であれば、操作等も慣 れており活用しやすいと思います。ただし、支援として使用する場合に は、個人アカウントを共有することに抵抗のある学生がいたり、学生同 士のトラブルにもつながるおそれもあるため、支援用のアカウントを作 成して運用する方法も考えられるでしょう。LINEアカウント使用の注意 点については「LINEを活用した遠隔手話通訳(2020.9.8公開)」をご参 照ください。

また、LINEのメリットとしては、Slack等と同様に支援担当ごとにグ ループなどを作っておくことで細かな連絡調整が行うことができ、既読 機能によって支援時にトラブルがあった際など、相手が確認しているか

判断も可能となります。



<u>オンライン授業での</u>

情報保障に関する 📑

PEPNet-Japan

LINE使用例

